地域共創支援枠

母子・父子家庭における子どもの自然体験の不足と、保護者の自分らしい生き方の創出

連携した地域団体　おおくわこども食堂
金沢学院大学　広根ゼミ

1 活動の目的

〈 ひとり親家庭が抱えるニーズ 〉

「おおくわこども食堂」を利用する母子家庭の保護者からの声

- 子どもが休日に自然体験や文化的体験をすることができない
- 母子だけではやってみようと思えない
- すでにある体験教室は料金が高くて参加できない

↓

子ども --- 普段の学校生活や家庭生活では体験したことのない、新しい発見が出来るような「アートワークショップ」の開催
ひとり親 --- 子育てや仕事に追われる日々の中で、自分らしく生きることや人生の楽しみを感じてもらえるような癒やしの機会を提供

アートワークショップとは
季節の行事と連動して夏・秋・冬に開催
ターゲット（こども・親子・親）を変えて実施
癒やしの素材として羊毛フェルトを導入

2 活動の流れ

3 イベント広報物

夏・秋・冬の募集用チラシ

秋・冬の会場展示フラッグ

SNSでの募集の様子

当日の会場の様子

4 活動の様子

秋のアートワークショップ

サブタイトル：見て触れて食べて感じる　ひつじのアートたいけん

参加人数：37名（ひとり親家族8組23名、山立会2名、こども食堂3名、学生8名、教員1名）
10月10日、白山麓、吉野谷ふれあい交流センターおよび山立会の運営するひつじ放牧場にて、午前羊のふれあい体験、午後羊毛フェルトのワークショップを開催。
「おおくわこども食堂」は、お昼にラム肉のカレーライスを提供。フードバンクの食材配布も行った。

開会 ・・・ 羊と触れ合い体験 ・・・ ラム肉の昼食 ・・・ 羊毛フェルト体験 ・・・ 発表会 ・・・ 閉会

［ 参加者のアンケートから ］

子供に普段経験させてあげられないことが1日で盛りだくさんあり、ありがたかった

上の子、下の子それぞれが楽しめる時間があってよかった
大人に対しても、学生さんたちのサポートがあり、青空のもと、リフレッシュできた

［ 学生の振り返りから ］

保護者と会話をして、このようなイベントがどれだけ求められているかがわかった

参加者の子どもの人数や年齢によってケアの仕方は変わっていくため、その場その時で柔軟に行動していくことが大切

フェルト作品の発表で、学生側がやさしく質問をしたり、親と一緒に発表してもらうなどの機転をきかせ、必要以上に発表を強要しない対応が勉強になった

フェルト体験の際、飽きた子どもが外で遊ぶのも容認したように、決めた枠内だけで子どもを抑え込むのではなく、臨機応変にいろんな楽しみ方があるべきだと感じた

振り返りのまとめ
様々な場合を想定し、臨機応変に対応することが大事

冬のアートワークショップ

サブタイトル：親子でお家を飾り付け！ 季節のオーナメントづくり

参加人数：32名（ひとり親家族7組15名、こども食堂2名、学生14名、教員1名）
12月12日,金沢学生のまち市民交流館にて親は羊毛フェルトで鏡もち、子どもはペーパークラフトのクリスマスリースを制作。
「おおくわこども食堂」は、親の癒やしの一助を担うお茶とお菓子の提供および、午前の参加者にはお弁当、午後の参加者にはフードバンクの食材を配布。

開会 ・・・ 親子それぞれの体験 ・・・ 発表会 ・・・ 閉会 ・・・ お弁当配布

［参加者のアンケートから］

親子ともどもとてもリラックスできて楽しい時間だった、次回も参加したい

一人っ子なのでお兄さんお姉さんと接することができてよかった

［ 学生の振り返りから ］

前回参加していただいた親子が今回のイベントにも参加してくれていたので嬉しかった

学生が一人一人の子供に対して柔軟に対応できていた事が前回に引き続きすごくよかった

子供がいるとできない話（サンタさんは何歳までプレゼントをくれた？）ができたこともリラックスの時間になったのかなと思った

親御さんからの意見や、子供達の楽しい様子から、親と子を分ける時間にはとても重要な意味があり、需要のある貴重な機会なんだと気づいた

振り返りのまとめ
親と子それぞれ楽しめる場の重要性がわかった

5 活動の成果

石川県デザイン展 学生部門銀賞受賞

新聞報道
こども食堂の認知度向上と食事の提供を超えた活動について、意義ある試みとして周知

6 まとめ

次年度も本活動の継続実施を行う。今後も「アートワークショップ」の場でうまれる、**参加者と学生間のコミュニケーションがもたらす意識の変化**について考察し、次の活動へと繋いでいきたい。
大学で学んだアートやデザインについての**知識を活かしながら、地域と連携**するという経験は、社会人になった後も活かし続けることができると感じる。今後の**自分の財産となる貴重な経験**となった。

次回以降の為の視察の様子「七尾美術館」